

京都教区時報

京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2021年 司教年頭書簡を受けて

第9回 コロナの年から神の国へ

新型コロナウイルスの感染の拡大によって、わたしたちは公開ミサの中止という今まで経験したことのない教会生活を送ることになりました。とくに昨年は、ほとんどの教会で、一年の典礼の頂点である復活祭を公開ミサなしで行うことになりました。

かわいそうなのは去年の復活ろうそくです。奈良ブロックにおいて、非公開ミサで祝福された各教会の復活ろうそくは、ミサの行われない聖堂にひっそりと納められ、灯される機会もないままに復活節を終えました。ようやく秋に公開ミサが再開されたときにはすでに典礼も年間に戻っており、わずかに葬儀の際に灯されただけでした。一度も火をつけられなかったろうそくもあったことでしょう。

しかし、去年の復活のろうそくには、A（アルファ）とΩ（オメガ）の間に2020という年号がしっかりと刻まれていました。ご存じのようにアルファは世界の始まり、オメガは世界の終わりを表します。世界の終わりはもちろん神の国の完成です。つまり、2020年も神の国へ向かう一年として、歴史のうちに刻まれているということの意味します。そして2020年の復活ろうそくはひそかに一年を終え、2021年の復活ろうそくにバトンタッチしました。ほとんど灯されなかったろうそくは、神の国への歴史を確実に一年進めていたのです。



筆者によるイラスト

コロナ下の今、わたしたちは一日も早い感染の終息を願っています。その中で、よく聞かれるのが「コロナ前はよかった」「コロナの前に戻りたい」という言葉です。たしかに、日常生活だけでなく、教会生活も制限され、感染症に怯えながら暮らさなければならぬ現在、新型コロナウイルスがまだ流行していなかった一昨年は幸せであったと思うのは当然かもしれません。しかし、はたしてコロナ前はみんなが幸せだったでしょうか？ 理想の社会だったでしょうか？

2020年の復活ろうそくは、コロナ下の一年が無意味でなかったことを教えてくれます。コロナ下であっても、神はわたしたちの歴史を確実に一年、神の国に向けて進めてくださったのです。2021年もコロナとともに過ぎようとしています。コロナ前に戻すのではなく、神の国に向けて進むために何ができるかを、ともに考えたいと思います。

奈良ブロック担当司祭 柳本 昭



京都教区 田中健一名誉司教 略歴

1927. 8. 31 愛媛県宇和島市にて誕生
 1945. 8. 9 原子爆弾被爆 (長崎/17歳)
 1946~1952 大阪・東京大神学院 (哲学・神学)
 1951.12.21 司祭叙階 (高松/24歳)
 1952~1955 ローマ・ウルバノ大学院 (教会法)
 1956~1958 少年の町 (アメリカ・ネブラスカ)
 シカゴ・ロヨラ大学院 (児童福祉)
 1958~1964 大阪教区 (夙川、甲陽園、園田)
 1964~1970 高松教区 (桜町、三本松、長尾)
 1970~1976 高松教区 (教区事務所、大島)
 1976. 9. 23 司教叙階 (京都/49歳)
 21年間、京都司教・日本司教協議会
 諸宗教対話・交流・協力を担当
 1997. 6. 15 健康上の理由で司教を引退
 京都教区名誉司教となる (69歳)
 2021. 7. 29 帰天 (93歳)



田中健一司教様
 御父のもとで安らかに



「神に栄光、神に賛美」を
 モットーにして

京都司教 パウロ 大塚喜直

ライムンド田中健一名誉司教様は、本年7月29日、静かに天国に旅立たれました。8月31日の誕生日に94歳を迎えられる直前でした。また今年の12月21日で司祭叙階70年の記念でした。田中司教様は21年間、教区長として、教区内外のおさまざまな事柄に神経と体力を注ぎながら司牧者として重責を果たされました。田中司教様のご奉仕に深い感謝を表したいと思えます。

■長崎での被爆体験

田中司教様は2001年、司祭叙階金祝・司教叙階銀祝を記念し、自叙伝『主とともに七十四年』を著されましたが、その中に長崎小神学校在学中の被爆体験が綴られています。「私は原子爆弾を受けたにもかかわらず、一命を取り留めた。そのことから、神の特別のお計らいを感じない訳にはいかない。どんな困難に遭遇しても、それに打ち勝って司祭となり、原子爆弾で亡くなった友人の分まで一生懸命に神の道具となつて、み国のために働こうと強く決心した」(40頁)。



泰星中学 (小神学校) 当時

そして、1951年12月21日、高松カトリック教会で司祭に叙階され、翌1952年3月、東京カトリック神学院の卒業式での来賓田中耕太郎氏(最高裁判所長官)のことが胸を打ったとあります。「皆さんは目に見える卒業証書は手渡されないが、『行きて万民に教えよ』という神からの素晴らしい卒業証書が手渡されたのです。そして、その卒業証書には、『ナザレトのイエス』という見えないサインが記されているのです」(47頁)。

自叙伝では、被爆体験から奇跡的に一命を取り留め、ようやく司祭となられた田中司教様が、ローマ・アメリカへ留学し、大阪教区・高松教区で20年働かれた後、京都教区司教の任命を受け、2代目京都司教として21年奉職され、教区長引退までの74年の半生を振りかえっておられます。神に召され、キリストの司祭と

して生涯を捧げられた思いと、田中司教様の「私の着地」への思いが綴られ、「神に栄光、神に賛美」と締めくくられています(239頁)。

戦後の生活の苦しい時代に司祭を志した田中司教様の司祭生活は、「目に見えない卒業証書」を手にはじめたのだと、深く感動いたしました。



1951年12月21日 司祭叙階式
3人の新司祭の左側が田中司教
高松カトリック教会

■京都教区ビジョン『社会と共に歩む教会』

1976年9月23日に司教叙階され、京都教区長として田中司教様の21年間は、古屋司教様の戦後の教区創設発展期

から、充実刷新期という時代でした。当時の世界のカトリック教会は、第二バチカン公会議の精神がどのように根づいていくかという大切な時代でした。日本司教団も、布教という宣教意識から社会への福音宣教へと転換していく、一つの大きな時代の変遷期を過ごしていました。

田中司教様は1981年11月23日、京都教区創立44年目にあたり、2年半かけて検討された京都教区のビジョン『社会と共に歩む教会』を発表されました。教区民が共通のビジョン(方針・展望)を持つことによって宣教するということは画期的なことでした。ビジョン宣言文には次のように述べられています。「こうして、私たち京都教区民は、真剣に祈り、聖霊の導きを熱心に乞い求めながら意見交換を重ね、教区民として共通のビジョンを持つことによって、神の国がよりよく、よりふさわしく実現され得ると考え、そのために努力することを決意しました。そして、私たちはこの社会の中にあつて、神とすべてのものの前に謙虚にひびをかかめ、愛と正義、信仰と希望に基づき、一人一人を大切にし、また、すべてのものを尊重しながら、ともに歩んでいかねばならないと考え、『教会は常に社会とともに歩むものである』という結論に達したのであります。これは、教会中心に考えるのではなく、社会を中心にして、「教会が社会の隣人になる」

という意識転換の上に成り立っていました。第二バチカン公会議の教えを實踐していくために、京都教区はその自らの宣教のビジョンとして、教会と社会の関係を問い直し、特に弱い立場に置かれた人々への関わりを最優先に行う宣教の基本方針を定めたのでした。

そして、日本司教団が1984年「日本の教会の基本方針と優先課題」を発表し、1987年の第一回福音宣教推進全国会議(NICEI)の開催が提案されたとき、田中司教様は京都教区に会議を招致されました。日本の福音宣教の転換期に京都教区が重要な発信地となるべく、相当に大変な準備が行われましたが、京都教区として大変誇らしいことでした(残念ながら、わたしはローマ留学中で会議には参加できませんでした)。



1980年アド・リミナ
聖ヨハネ・パウロ2世と共に バチカンにて

■諸宗教対話

田中司教様は司教団の中では、諸宗教対話の分野で重要な役割を果たされました。古都奈良・京都のように多くの日本の伝統宗教の聖地本山を抱える京都司教として、バチカンの諸宗教対話評議会の日本窓口として、日本宗教界での対話環境作りに大きく貢献なさいました。特に、1986年、聖ヨハネ・パウロ二世教皇が呼びかけたアジジでの「平和の祈りの集い」に参加した山田恵諦天台座主殿下のイニシアチブで始められた「比叡山宗教サミット平和の祈りの集い」は、そのすばらしい実りであり、今年も第34回が開催されました。諸宗教対話の活動は平和のための祈りにとどまらず、貧困、人権、環境問題など、宗教者が連帯して活動することにも尽力され、世界宗教者平



田中司教の紋章

京都教区の4府県とダビデの星が描かれている。モットーは「神に栄光、神に賛美」

和会議(WCRP)日本委員会のメンバーとしても活躍されました。また、キリスト教と仏教、つまりヨーロッパと日本の靈性交流の面では、1979年から始まる「東西靈性交流」(隔年毎にヨーロッパと日本で開催され、禅僧と観想修道会を中心として交流)の日本側準備を担当されました。

■キリシタン関係

田中司教様は、キリシタン関係の事業にも熱心に取り組んでくださいました。都(ミヤコ)であった京は歴史的に政治文化の中心であり、キリスト教も畿内でのその隆盛と迫害を迎えましたが、京都教区の京都府、滋賀県、奈良県、三重県にも多くのキリシタンゆかりの地があり、田中司教様は各地の殉教地を整備し、顕彰活動を盛んにしてくださいました。京都元和の大殉教を記念する「元和殉教の碑」や、キリシタン大名内藤ジョアンの居城跡入口の顕彰碑の設置。細川ガラシア夫人隠棲の地、味土野での「ガラシア祭」。滋賀安土セミナリヨ跡の整備とセミナリヨ祭。奈良宇陀の福者ユスト高山右近の受洗地沢城跡での「右近こどもまつり」など。1996年11月23日には、京都ノートルダム女子大学ユニソン会館において、『日本26聖人殉教400年祭in京都』を開催されました。



2011年12月7日 司祭叙階60周年記念ミサ
教区司祭団と共に カトリック河原町教会

■感謝

主イエス・キリストは、天の御父からご自分に任された人々に向かって、こう言われました。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」と。田中司教様はこの主のことばどおり、この世でのすべての重荷をとかれ、永遠の安息に入ら

れました。いのちの与え主である神が、神のため、教会のために生涯を捧げられた田中健一名誉司教様に、復活の恵みをお与えくださいますよう、京都教区の皆様とともに、祈りをささげたいと思います。

田中司教様とよめご



京都教区司祭 村上透磨

田中司教様の帰天にあたり、司教様の思い出を一筆書くように求められました。兄の故村上眞理雄神父がよく、司教様について言っていた冗談は「背広に袴を着けたような司教様」という言葉でした。ご存じのように、司教様はとても几帳面で、メモ魔と言われるほどでした。もし、司教在任中の手帳があれば、教区のために資料として残しておいていただきたいと思えます。

教区は司教の動きや指導を中心に動きます。教区時報もそのようなことを考慮しながら、京都教区の歴史の一資料とし



2015年8月31日 米寿記念のミサ
教区司祭団と共に カトリック高野教会

て残しておきたいと、私は田中司教様から任命された編集責任者として努力してきました。教区時報再刊号1977年6月号から1997年6月号の大塚司教祝聖までの21年間、できるだけ司教の姿が見えるように編集してきたつもりです。司教の姿を見せるといことは、教区の動きが見えるということです。司教を中

心に生きた証となるのが、教区共同体のあるべき姿だと思っております。

田中司教様在任中、実に多くのことが、教区にも日本の教会にも起きました。教区としては教区ビジョン作成と教区の50周年、そして新しい福音宣教共同体への出帆です。そこに、第一回福音宣教推進全国会議(NICEI)の京都開催が飛び込んできました。この時の司教様の功績は、まずNICEIを開催地として受け入れられたことでしょう。NICEIは宣教司牧評議会を中心に、司祭、修道者、信徒をあげての恵みに満ちた活動であったと思います。京都教区は「教区ビジョン―社会と共に歩む教会」と、「NICEIのビジョン―開かれた教会」を同一路線と認め、これに取り組みました。あれからもう30年以上になり、ビジョンもNICEIも遠くなり、知っている人も少なくなりました。

田中司教様、ありがとうございました。天の先輩たちと共に、どうぞ安らかに休みください。そして私たちをお護りください。私ももうすぐ参ります。諸先輩たちよろしくお伝えください。司教様のかげを慕いて。

第14回 戦争と平和写真展

京都教区カトリック正義と平和協議会

報告 河原田眞弓

8月7日(土)、8日(日)の二日間、今年も河原町教会地下のヴィリオンホールにて戦争と平和写真展を開催しました。今回のテーマは、「沖縄・フクシマ・核(広島・長崎の記録)」。



は「原子爆弾・広島と長崎の記録」、長崎原爆資料館からは原爆被災資料として写真パネルをお借りすることができました。第二次世界大戦終了直前に投下された原爆の被害と、被爆者のその後の生活を知ることができました。

オキナワ平和サポーターからは、戦争被害の影響が戦後75年経っても続く沖縄の今、辺野古の現状、ジュゴン、美ら海の写真。美しい自然と、基地埋め立てとのギャップを感じます。

そして、福島民報社からお借りしたのは、福島を中心とした東北地方での津波と放射能の被害を受けた人々の10年のあゆみを知ることが出来る写真。

これら今年のテーマに添った写真数百枚を紹介しました。

京都教区時報や

HP、河原町教会のお知らせなどで案内していただいたのおかげで、

コロナ禍が続く中でも、二日間で100名近くの来場者がありました。ミサに來られて、偶然写真展の開催を知った方々も多数お越し頂きました。

来場者の感想には、当時の様子や人々のその後の歩みに想いを馳せ、今の状況を知ることの大切さ、戦争や放射能被害による生活苦、差別される苦しみや悲しみの記憶を辿り、二度とそのようなことが起こらない平和な社会を希求する想い等が綴られていました。

人々の記憶や関心は、触れる機会がなると薄れる一方です。戦争の悲惨さと悲しみを思い起こし、平和を祈る機会の一つとしての、この小さな写真展の役割を改めて感じました。



トノシロのふき
「堪忍袋の緒も切れた」

よくがんばっています。この騒動の最中であって、よく忍耐しています。それには頭が下がります。人々に愛があるからでしょうか。

パウロが歌う愛の讃歌(Ⅱコリ13章)は「愛は寛容(気長なもの)」で始まり、最後は「全てを耐え忍ぶ」で結ばれます。パウロはそれをイエスさま、特にあの十字架上のイエスさまの御心の愛を心に描きながら歌っているのです。「苦しみに遭った時、何故と問うなかれ。ただ十字架を眺めよ」と言われます。十字架上のキリストに、愛を見るのです。苦しみは愛であることを、キリスト者は知っています。



十字架にキリストの愛を見出す人は、苦しみが救いであることを知るので。「サルUTE」は「健康であれ、救いあれ」、そして「こんにちは」という意味にも使います。互いに希望と喜びが分かち合えるのは、そこに愛があり、祈りがあり、キリストの平和があるからです。

大変だ、大変だと騒ぐのではなく、静かに、愛をもって、祈りの中で明るい朝を待ちます。「ボンジョルノ！」陽気なイタリア人の言葉を借りて。

広報委員会担当司祭

村上透磨

皆様こんにちは！ 京都南部地区運営委員の橋本仁子です。

今回は、青年センターの大きな行事である「YES」をご紹介します。「YES」は京都教区の青年同士の絆をより深めるべく立ち上げられたものです。神父様や、司教様にも来ていただき、毎回とても楽しく、学びも多い機会になっています。

毎年秋に一泊で行っていたのですが、昨年はコロナの影響でオンラインでの開催となってしまいました。今年はどうなるのでしょうか!? この記事が載る頃には恐らく決まっていますので、ぜひ青年センターのホームページをご覧ください、最新情報をチェックしてください！ 皆さんに、オフラインでお会いしたいものです…。

※YESとは Y=Youth E=Enjoy,Encounter,Exchange,Etc… S=Space の略

京都南部地区運営委員/河原町教会 橋本 仁子

つながりネットワーク 探めようふたご=カネシマ

京都カトリック青年センター

青年センターは、教区を越える青少年活動について
京都教区の窓口となるとともに、京都教区内の各教会、
青年の各諸活動をバックアップするための機関です。



← 青年センターのHPも見てね！

青年センターあんでな

大塚司教の10月のスケジュール

新型コロナウイルス感染症の影響のため、スケジュールが変更される場合がありますので、最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



10月のお知らせ

教 区

信仰教育委員会

青年のための黙想会(オンライン)

日 時：2日Ⓜ 15:00~16:30

講 師：菅原友明神父

テーマ：司祭・修道者の召命

対 象：青年男女

(18~35歳 高校生参加不可)

問合せ：

メール/shinkoukyoikuiinkai@gmail.com

Fax/075(366)6679

案内、申し込み方法は各小教区宛、一斉メールにて配信済

広報委員会

※ 12月号の原稿締切り日は10月25日Ⓜです。



教皇様の訪日講話を
朗読動画で

カトリック中央協議会では、2019年教皇フランシスコ訪日の際、各地で行った講話の朗読動画を作成、公開しています。書籍『すべてのいのちを守るため——教皇フランシスコ訪日講話集』に納められている講話を順に作成しています。

電車の中など手近に書籍が無いときでも、教皇フランシスコの思いに心を合わせることができますし、本で読むのとはまた違った印象があるので新たな気付きがあるかもしれません。

QRコードを読み込み、YouTubeチャンネルでご視聴ください。



ブロック

奈良ブロック

オンライン聖書講座(YouTube)

すべてのいのちを守るためⅡ

コロナ時代を生きる信仰(年頭書簡)

(全3回)

講 師：大塚 喜直司教

奈良ブロックHPからどなた

でも視聴できます。10月11日

まで視聴可能。



諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：10日Ⓜ 14:00 洛星宗教研究館

23日Ⓜ 18:00

ミサ奉仕後 河原町教会聖堂

31日Ⓜ 14:00 洛星宗教研究館

現在活動休止中。再開時、団員には連絡します。

問合せ：075(951)4283 則武 隆

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：7日Ⓜ、21日Ⓜ、28日Ⓜ 10:30

河原町教会 2階楽廊

問合せ：075(701)3303 岡田久美

カトリック京都働く人の家(九条教会内)

定例会：10日Ⓜ 15:30~17:30

対 象：15~35歳の方 どなたでも

問合せ：090(8207)1831 瀧野正三郎

心のともしび ラジオ番組案内

(全国34局で放送)

K B S 京 都 Ⓜ~Ⓞ 朝 5:55

Ⓜ 朝 5:15

ラ ジ オ 関 西 Ⓜ~Ⓞ 朝 5:00

Ⓜ 朝 6:05

10月のテーマ「糧」

点訳版「京都教区時報」〈無料〉ご希望の方は『カ障連大阪フレンドリー点字部』嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。

Tel・Fax/079(431)8601